

9 月 16 日の授業への RP について

2022 年 9 月 23 日

※以下で紹介する RP の内容は、適宜、短縮したり補足したりしてある。

※同趣旨の RP が複数ある場合にも特に断らずに紹介している。

得票と議席の図表

1. 選挙結果の表 1 の得票数だけでは数字が大きすぎて…選挙結果を具体的に認識しにくい。しかし、表 2 の得票率や議席率が加わることで全体に対していくらかという基準が揃うため、選挙結果が見やすく感じた。ご指摘のとおり、「率」ないし「割合」は、比較に適していると言える。

2. 投票は一人一票であるのに、なぜ得票数に小数点以下が算出されるのかと疑問に思った。…調べたところ同姓同名のような候補がいた場合の措置だと分かった。

得票数が小数になる点に気付いてくれた。よく表を見てくれていたと思う。さらに、なぜ小数になるのかを調べてくれた。これは「按分」で生じる。按分とは、票に記された情報からは複数の候補者のいずれかの票か確定できないときに（ご指摘のように、同姓同名の候補者がいるときも含む）、その票を「分けて」計上する方法として、「疑いようなない票」の数の比率で「分ける」というやり方である（ちなみに、これは「期待値」という概念でも説明できる）。

小選挙区部分での得票と議席の関係

3. 衆院選の結果を比率で表したグラフについて、得票数のグラフと議席数のグラフを比べると、第一党となっている自民党が議席数では過半数を上回っているが、得票率では 50%を切っていることが一番目に付いた。得票率と議席率との相違が大きいことに気付いてくれている。
4. 表 2 の比率を追加したものを見ると、得票率と議席率が比例しておらず…小選挙区制度においてなぜこのような議席配分になるのか理解するのがとても難しかった。
5. 疑問：得票率と議席率が異なるのはなぜか？両者の値が異なることで生じるメリット・デメリットはあるのか？得票率と議席率が相違するのがなぜなのかといった疑問を提示してくれた。

6. 表 1 と表 2 を見くらべてみて、得票率と議席率が記載されていることで、両者が必ずしも比例しないことに気づいた。自由民主党が得票率以上の議席率を得ている一方で、立憲民主党は得票率のわりに議席率が少ない。その他の政党の欄に関しては、票が入っているにもかかわらず、議席はゼロであり…現在の得票数からの議席数の割り当て方法は良くないのではと感じた。

得票率と議席率との相違について、その要因が「議席数の割り当て方法」だと推測してくれている。

7. 選挙結果から自民党の得票率が 48.1%で立憲民主党は 30%の得票率があるにもかかわらず、自民党は獲得議席が 64.7%で立憲民主党は 19.7%という差があることに驚いた。…この差が生まれるのは小選挙区制による死票が原因であることが明確であるため早急に改善が必要であると感じた。
8. 選挙結果の図表を見て感じることは、小選挙区の内容であるため、得票数の多い順と獲得議席の多い順が

一致しないことが分かる。…このことから、さらに細かい分析をして、当選するために必要な得票数を予測してその地区に出馬し勝つことができれば、少ない得票数でも議席を獲得でき、政党は余分な資金を使わなくても良くなると思った。

これらの RP は、小選挙区部分における得票率と議席率の相違について、それが小選挙区制によるもの、あるいは「死票」の発生によるものだと指摘してくれている。さらに 8 の RP は、これを利用した政党・政治家の選挙戦略についても考察してくれている。よく考えてくれていると思う。

これらの問い・推測・指摘に関しては、この授業でものちのトピックで扱いたいと考えている。

カラーVS モノクロ

9. カラーとモノクロの図を比較してみて、カラーのほうが色のメリハリがついていて、モノクロで見るより目に優しく、見る人に負担がかからないと感じた。
10. カラーとモノクロでも図表から感じるイメージが違うということも分かった。実際、私は今回の資料をモノクロで印刷してしまい、手元で見ていたのだが、その資料とパソコンでカラー表示される図表では感じ方が大きく違い、カラーの方が情報を読み取りやすかった。しかし、グラフのデザインを工夫するとモノクロでも一気に分かりやすくなるということも分かった。

ご指摘のとおり、図表などを示すときに、カラー表示ができるなら、配色の工夫によって読み手の負担を軽減できる可能性がある。カラー印刷等のコストが安くなることを私は望んでいたりする。

主権者教育

11. (主権者教育について) 中高でビデオみたいなのを見た気もしなくもないが、正直何も覚えていない。
12. 主権者教育について、私は今年の参議院選挙にも投票しに行ったが 18 歳が成人年齢で、選挙に行けますと言われても何を根拠にして、どこの政党に投票すればいいか全くわからなかった。私は調べた上で政党を選んだが、多くの人は忙しかったり、面倒くさかったりして大体で投票する人が多い。また、1 票では変わらないと投票に行かない自分と同世代の有権者も見かける。これらの経験から、高校で選挙での投票の仕方や政党の情報の集め方などを学ぶ機会を作っていくべきだと考える。
13. 私は、今までに(主権者教育を)受けたことはありません。政治にあまり関心がないままで、選挙権を得てしまったと感じています。選挙に関心を持つきっかけになったのは、自分が住む市の市長選挙があったことでした。少しでも関心を持つことができたのは、自らが住む市の市長選であり、自分に非常に関係があると感じることができたからだと思います。

これらは、特段に「主権者教育」を受けた記憶がない、ということを述べてくれた RP である。13 の RP が述べるように、特に主権者教育を受けていなくても、「自分ごと」となるような選挙があれば関心が高まる、ということもありそうである。

14. 主権者教育に関しては、18 歳に選挙権が引き下げられたにも関わらず、あまり整備されていないように思う。私が選挙についてしっかりと学んだのは、大学の講義である。私は政治学ゼミに所属していて、選挙や民主主義の大切さについて学んでいるが、18 歳のときには何も分かっていなかった。

この方は大学に入ってから選挙などに関心を持つようになった、と述べてくれている。他の方で同様の経験を語ってくれた方もいた。法学部で学んでいると他学部よりも関心を持ちやすいかもしれない。

15. (主権者教育の)経験については、中学生の時に生徒会役員の選挙を行う際、自治体から本物の投票箱を借りて校内選挙を行った経験がある。本番さながらに行うことで、将来選挙権を持って投票に行くということがイメージしやすく、選挙を少し身近に感じる事ができたと思う。
16. 自分は「主権者教育」について、高校などで特に教科書で学ぶ以上のことがあった記憶はないが、小中学校で生徒会の選挙を行う際に(当時はただの行事としか認識していなかったが)、生徒一人一人がそれぞれ紙に書いて投票箱に入れたり、その際に何を書いたか言わないように先生から言われていたりした記憶があるため、それも一つの主権者教育だったのではないかと思った。

これらの RP では、生徒会役員選挙の際に、「本番」の選挙(公職者を選ぶ選挙)と同様の方法がとられたため、「本番」の選挙のあり方の理解に役立ったのではないかと、というご意見である。私も同様の意見を持っている。

17. 今回の講義の中で主権者教育の話がありましたが、私が通っていた中学校では選挙への参加意識を持たせるための取り組みが非常に進んでいたと思います。特に印象に残っているのは生徒会選挙における取り組みです。毎年、生徒会長・副会長・その他各委員長を決める際に信任投票や選挙を行ってききましたが、その際には、実際の選挙で使われている投票箱を市役所から借りてきて、その投票箱に一人ずつ投票用紙を入れるという事を行っていました。これには、生徒に投票用紙の一票一票の重さを感じてもらうことや、実際の投票所の厳かな雰囲気を知ってもらうという目的があると聞きました。また、信任を意味する○以外の文字や記号が書かれている投票用紙は、いかなる理由があつたとしても完全に無効用紙とすることや、私語が一切ない秘密選挙の中で記入が行われるなど、実際の選挙制度を多く取り入れた生徒会選挙となっていました。私が役員を務めていた時には開票を任されたこともあり、その時のことは今でも非常に貴重な体験だったと思っています。

この方は詳細に生徒会役員選挙のご経験を語ってくれた。秘密投票の厳守などはまさに「本物」の選挙のようである。こうした教育は、「慣れ」を形成して、「本番」で投票所に行く心理的ハードルを下げるのではないかとと思われる。

東大朝日政治家調査の結果のサイト

18. 「東大朝日政治家調査の政党比較を見て…」 「政党比較のサイトを見てみると、政党の考えていることが、見やすく掲載されており…」 「(東大朝日政治家調査の結果のサイトで)消費税率と富裕層への課税と格差是正の三つの項目について関係が出てきそうだから、見てみた。…」
19. 東京大学谷口研究室・朝日新聞社共同政治家調査のページを見ると、与党というくくりであっても、政党によって政策課題におけるスタンスが異なると知った。…国民一人一人が違う意見を有するように、政党もそれぞれに譲れないポイントがあるのだらうと理解した。

前回、東大朝日政治家調査の結果が示されているサイトを紹介していた。これを見てくれた方が多数い

て、それぞれ考えることがあったようで、好ましいと思う。

20. 東大朝日政治家調査の結果を示した新聞社サイトで、憲法改正や対ロシア、消費税率などについてそれぞれの政党がこれらの項目についてどのように考えているのか、平均値を知ることができるので選挙の際に利用してみようと思いました。ただ 1 つのサイトだけで投票先を決めるのではなく、NHK のサイトなど、自分の信頼できるサイトを複数利用して比較することで自分の考えに一番沿った候補者・党に投票するのも大事なことでと感じました。

この RP では、「1 つのサイトだけでなく複数の情報源を利用するとよさそうである」という考えを述べてくれている。一般に、こうした調査結果に限らず、複数の情報源をチェックするのは好ましいことだと思う。

その他

21. 政治過程について、説明を聞き難いと考えましたが、一部がルールを決めるような独裁とは逆でルールをみんなで決めるというのが民主主義的な考え方であると理解しました。

そのようなご理解は妥当だと思う。

22. 今学期計量政治行政分析Ⅱを履修させて頂く事になった動機についてお話をさせて頂きます。最近、3 年生ということもあり、様々な企業のインターンシップに参加する事が増えました。そこで、社会に出てから必要な力の一つに“定量的に物事を説明すること”だと気づきました。定量的に他人に物事を説明する事で、聞き手がイメージし易くなるのです。これが、履修したきっかけです。

履修動機を教えてくれてありがたい（まるでエントリーシートのような！）。この動機にあるような能力形成に貢献できるかはわからないが、この方に限らず、授業を通してご自身で考え、気づきを得てもらえれば嬉しく思う。そうなるよう私なりにできるだけ努力するつもりである。

23. 初めに、計量政治行政分析という授業名を見て、「数字多そう、めっちゃ難しそう」と思ったのが素直な感想でした。元々数学は大の苦手で不安はありましたが、苦手から逃げてばかりでは学びに来た意味がないなあ、と思い挑戦させていただきました。ですが、実際に第一回の講義を受講してみて、安心しました。某所に行つてバテている先生はかわいらしく…頑張れそうな気がしました。

前回の動画の中で「この夏に行った某所」での私の姿をお示しした。これはスベっているだろうと思っていたので言及してくださって非常に嬉しかった。。。

24. 今回も変わらず山本先生の講義は倍率が高く抽選に受かると思っていなかったもので、また履修することができてとても嬉しいです。また半年間よろしくお願いいたします。

この方は春学期の「Ⅰ」の授業を履修していた方である。ご挨拶をもらえてありがたい。